

てんじ 展示を楽しむための鑑賞ガイド

歴史の舞台！ 観心寺と金剛寺



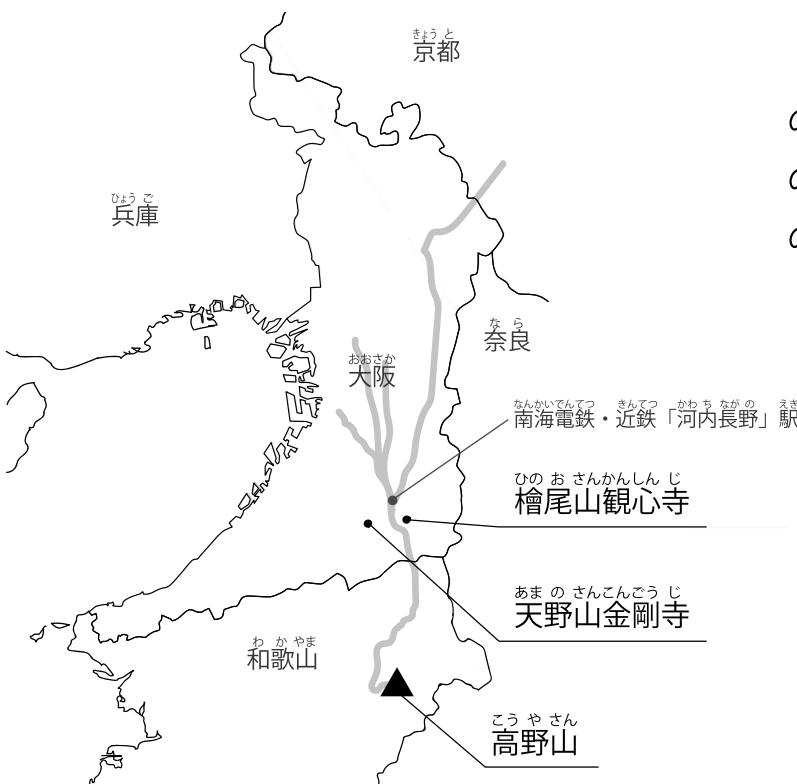
観心寺

奈良時代の呪術者、役小角が開いたと
伝えられる、今は真言宗のお寺。本尊
の如意輪観音坐像（秘仏）が有名。



金剛寺

奈良時代の僧侶、行基が開いたと
伝えられる、今は真言宗のお寺。本尊
の大日如来坐像は高さ3mを超えます。



観心寺と金剛寺は、京都や大阪から真言密教の聖地・高野山へ行くいくつかのルート（地図のグレー線）が合流する地域にあります。2つのお寺は、この地域の仏教文化の中心でした。

2つのお寺は、「南朝」と深い関わりがあったんだって。
「南朝」ってなにかな？



公式キャラクター
トラりん

南北朝の動乱と觀心寺・金剛寺

天皇家が南北に分かれた南北朝時代には、2つのお寺は南朝の拠点になりました。南朝の後村上天皇は、2つのお寺を仮の御所にして、そこで過ごしています。

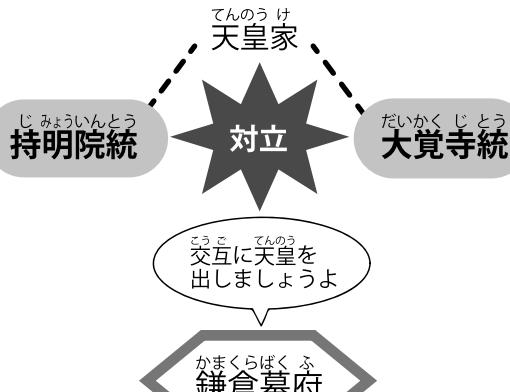
2つのお寺は、
動乱の歴史を物語る
お寺なんだりん！



複雑な対立関係

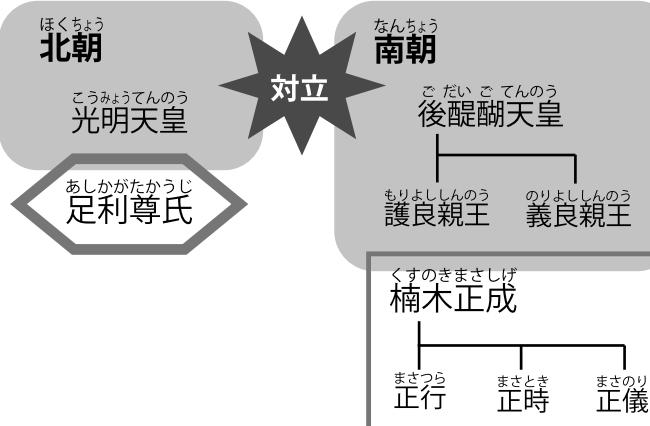
鎌倉時代の終わりころ

天皇家は2つに分かれて、鎌倉幕府が間をとりもっていました。



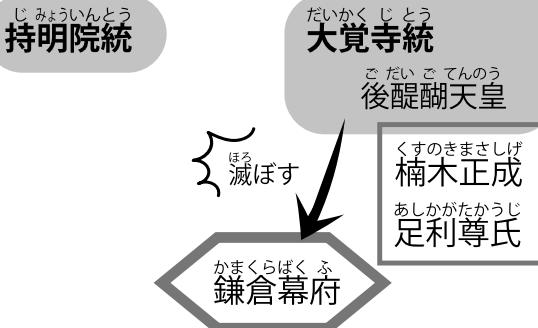
南北朝の動乱

後醍醐天皇についていたはずの足利尊氏は、今度は光明天皇を新しく天皇にして、自分は征夷大将軍(武士のトップ)になります。



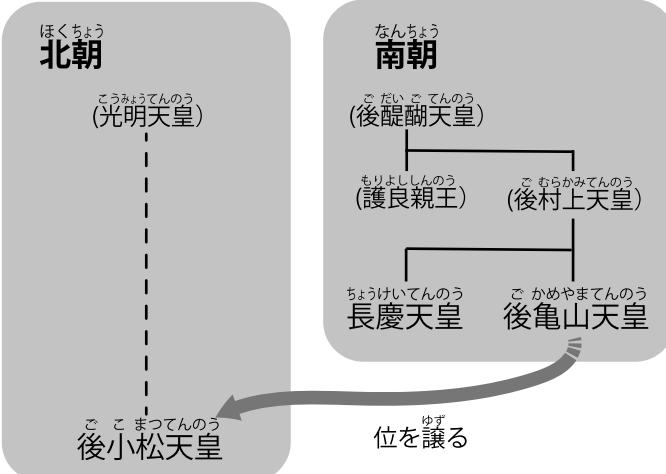
鎌倉幕府の滅亡（1333年）

後醍醐天皇は、幕府に不満を持つ武士たちを味方にして、鎌倉幕府を滅ぼします。この時、楠木正成が大活躍しました。



南北朝の合体（1392年）

南朝の後龜山天皇が京都に戻り、北朝の後小松天皇に位を譲るかたちで、南北朝の対立は終わりました。南北朝の合体には、楠木正成の子・正儀が大きな役割を果たしました。



建武の新政（1334年）

後醍醐天皇を中心とした政治が始まりますが、失敗します。

なん ちょう くすのき け 南朝と楠木家

あくとう くすのき まさしげ 悪党？ 楠木正成

かまくらばく ふ たお ごだい ごてんのう かつやく
鎌倉幕府を倒そうとする後醍醐天皇のもとで活躍し
た武将・楠木正成は、今の大坂府南河内郡千早赤阪村
の出身で、小さいころ観心寺で学んだともいわれます。
当時、幕府に従わない者は「悪党」と呼ばれましたが、
正成率いる武士団はこの地域で大きく成長しました。
その子・正行も同じく南朝に仕えました。

まさしげ たいへいき
正成は『太平記』という軍記で、戦の作戦を考える
のが得意な、心を尽くして後醍醐天皇に仕えた人物と
して語られたので、立派な武将の手本として、後の時
代にも語されました。この絵は明治～大正時代に描か
れたものです。

「悪党」という言葉は、
今と意味がちがうんだね！



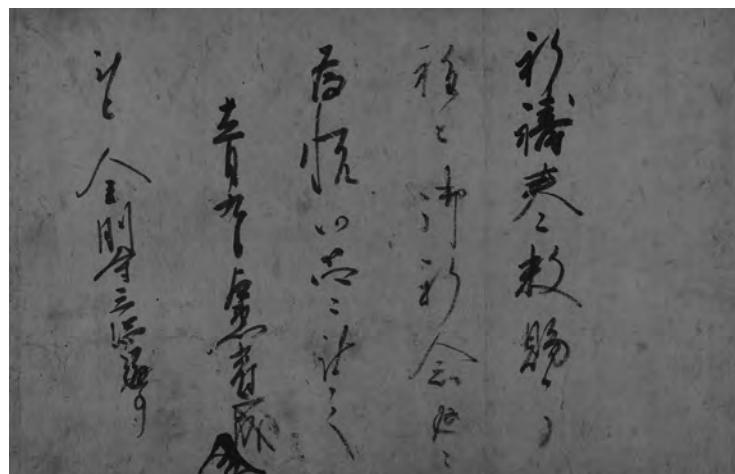
楠木正成・正行像
小堀鞠音筆
明治～大正時代 20世紀
大阪 観心寺 通期展示



まさつら 正行



まさしげ 正成



まさしげ 正成が書いた手紙

かんしんじ こんごうじ なんちょう こもんじよ
観心寺と金剛寺には、南朝に関わる古文書がたくさん
残されています。これは楠木正成が金剛寺に宛てて
書いた手紙。戦に勝てるよう金剛寺がお祈りをして
くれたことに、お礼を述べています。ちょうどこの頃、
まさしげ ばくふ しろ
正成は幕府から自分の城を取り返しています。

重要文化財 楠木正成自筆書状 「楠木氏文書」のうち
鎌倉時代 元弘二年（1332）
大阪 天野山金剛寺 前期展示

くすのき け 楠木家ゆかりのよろい

かんしんじ こんごうじ くすのきけ
観心寺と金剛寺には、楠木家ゆかりと伝わるよろいがたくさん残さ
れています。この腹巻はそのうちの一つ。

それまでの戦は、馬に乗った武者が戦いの主役でしたが、南北朝時
代には団体戦になり、徒步の兵も増えます。彼らが着たのが動きやす
い「腹巻」というよろいでした。もとは身分の低い武士のものでしたが、
便利なためリーダー達も使うようになります。体の前から着て、背中
で引き合せます。

重要文化財 腹巻
室町時代 15世紀
大阪 観心寺 通期展示



なん ちょう てん のう こ むら かみ てん のう 南朝の天皇・後村上天皇

な 亡くなった父母のために読んだお経



重要文化財 大般涅槃經後分卷下（部分）
奥書後村上天皇宸翰
南北朝時代 正平 14 年（1359）
大阪 天野山金剛寺 通期展示

楠木正成が亡くなった後、後醍醐天皇は12歳の息子・義良親王（後村上天皇）に位を譲り、すぐに崩御してしまいます。後村上天皇は金剛寺と觀心寺を仮の御所として、苦しい時期を過ごしました。

このお経の最後には、後村上天皇が字を書き加えています。これを記す直前に、後村上天皇は母も亡くしました。父と母の冥福を祈り、このお経を読んだことが記されています。



てんのう いの ささ ほとけ 天皇が祈りを捧げた仏さま

あいぜんみょうおう 小さな愛染明王の像が六角形の厨子に入れられています。愛染明王は愛を悟りにかえる力を持つ仏ですが、出世や、敵を退けることを願う仏でもありました。このお像は、後村上天皇が身边に置き、祈りを捧げたと伝えられています。

重要文化財 厨子入愛染明王坐像
鎌倉～南北朝時代 13～14世紀
大阪 観心寺 通期展示

てんのう び わ 天皇は琵琶の達人

てんのう すぐ えいきょう あた
天皇は「優れた音楽で人々により影響を与えるべき」とされ、子どものころから楽器を学びました。鎌倉時代の後鳥羽天皇の頃からは、琵琶が主な楽器となりました。後村上天皇は、金剛寺で達人だけに許された特別な曲（秘曲）を受け継ぎました。この琵琶は、金剛寺に伝わる三つの古い琵琶のうちの一つです。

琵琶
南北朝～室町時代 14～15世紀
大阪 天野山金剛寺 通期展示

